

江湖新聞

第五號

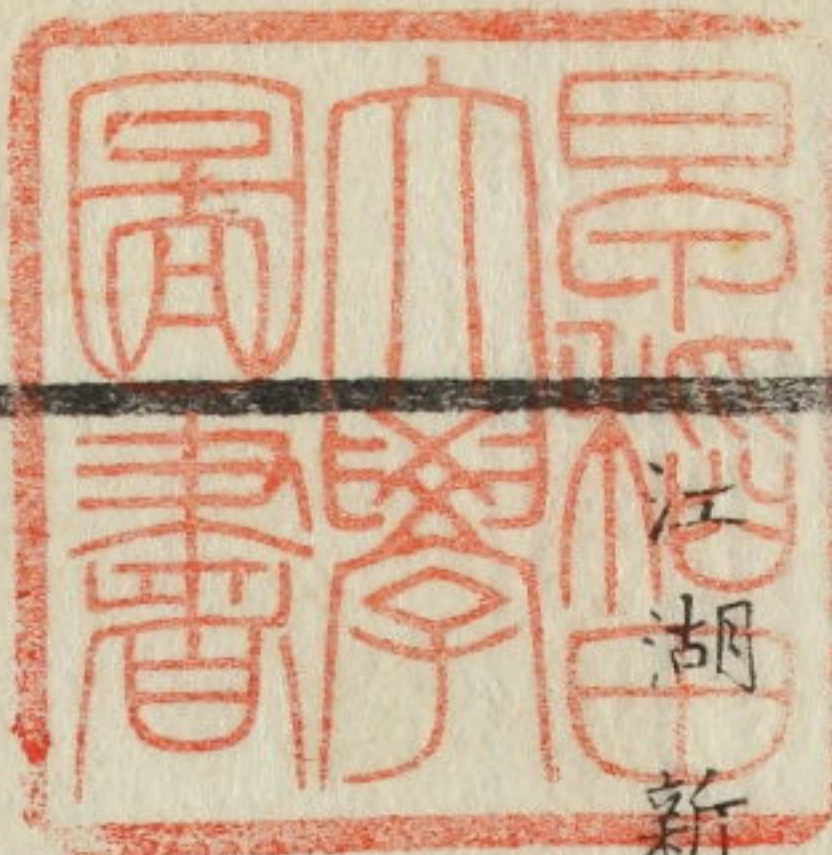


定價八分

西垣文庫 特
 文庫 10
 7287
 15



持 文庫10
7287
15



江湖新聞第十五号

慶應四戊辰年五月三日



西園某侯の連白

或る人の曰く伏見閑叟公の連白ありとあるは

詳なるを考へ

臣 懐以頓首従之甘言上 關下の常春徳川 □□ 連日移棋
茶炮一及伏見白羽欲之に多し 親王殿下を以て征東勅王の所
を以て伊勢進軍は在の如く此二道共王所之所向も木柵兼不
しく大小後伯故の標令の如く此の如くも吾之夫旆の下に帰復
つて一関東天險の二嶺とも殆ど無人と境を移る如く一丈も
支吾も仕仰府教第の士民も亦く欽息在

江湖三

天裁又後ハ□□歳去水戸表に遷分祖先創業の首領を
開き國土を獲の兵器を免出し全砲首罪の哀求を
朝命小庭トシテ罰ト
勅命僅身仕

天文の血路ハ一々所継責之ハ叛表連月を吐け々おまひ
何放言ハ以テ科違容易ハ状
皇威煥發然ト一むるハ中関東の士民獲哀之餘を兼
け周備倫生弟義の風も此を去ハハ扱了也又ハ其小也冠ハ
伏し
又昨之不可抗名不之不可交案を知り仰明降伏
仕々後之ハ引取忍方今

至上漸勿冲天下之大政二三陪臣之手小出之
王政復古之口實ト其実ハ私利を營之征東之山名義朝
款之罪状亦冤枉不直之義と雲傷ハ有之也上積年ハ霸
業久之ト平に誘進士字不振ハハ數萬の兵出之ト幕探
之トヤ雅中抑又徳川家の義ト祖宗掃風沐雨多カク艱難
を以テ天下之凶器を収め徳義ト生息を養毒ト申より救ハ
免ハ仁壽の域ハ臨せ尔来二百六十余年の間
朝廷ト深ク漸倚頼ト遊累代共るト
大權漸委任ハ然ラ上ハ
皇位漸鑄寧下ハ徳兆を平之化ハ治ト其功徳今者人心固結

朝憲不係りゆきの除却と 任出四領安堵し上會付儀ハ各家一
貴志ハ危ハ常ハお成ハ懐遠大ハ以就撰多志者砥蔚
以推持ハ一端ハお故人倫以扶ハお遊ハ
會任ハお叶ハ平右ハ兵端ハ徹切屏營ハ不顧忘偉也之上ハ
海必徹體頓首死罪

辰同四月



同四月廿一日加州度ハ軍勢凡二千人越後方田ハ向ヶ出
根ハ會付勝走ハ兵米山嶺ハ陣原ハ新進有之付

加州轉ハ進之兼途中一兄令世為之受官軍方薩州長外
ハ兵隊軍船多今所_{方田ハ武臣}以着船ハ直横上陸ハ
米山嶺ハ向ヶ進行ハハハハ

會付脱走ハ兵此程信州越前山ハ裏手ハ討出ハ任州地ハ
大名五家ハ之放走上回陣立松平何賀志及人数取ハ
討死ハ負_{カサ}夥ハ有ハ外ハ中

越後路ハ之國嶺ハ約ヶ嶽ハ方生ハ切ハハ要害ハ
取立テ往來嚴重ハお改メ上州ハ諸城ハ官軍方ハ之隊

相國めい愛國は月廿五日頃土岐山峠を越え長味河内道
新の會津脱走と兵賊後諸侯之兵と共に討出戦並に及
ひ北より由是の先頃を越後路に高入等二國を越一上物一
あり一ともの支軍方より召捕一沼田内一警紀並
小國の形勢安寧強し一舟遂に強弱及び其精
國に長國を懐養し中
○
之に諸侯のいふ事等詳をたす

○
その戦争願うありとす

出来まやせむね風の吹くき合 中川何某

